

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23530577

研究課題名(和文) 金融危機の会計分析 リーマン・ショック後の規則と規制の改革をめぐる

研究課題名(英文) Accounting Analysis on Financial Crisis

研究代表者

星野 一郎 (Hoshino, Ichirou)

広島大学・社会(科)学研究科・教授

研究者番号：10202300

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：リーマン・ショックをはじめとした金融危機において問題となると考えられる論点のうち、次のようなテーマについての研究をおこない、その成果を公表した。すなわち、貸倒引当金の設定主体と設定客体そして設定対象の会計的特性、企業継続を前提とした清算価値算定システムとしてのストレステスト、ストレステストにおける格付けの役割と関係そして影響に関する会計学的研究、財務会計ルール運用上の『遊び』の意義と弊害などである。

さらに、広義の金融危機に関連するテーマとして、次のテーマについても研究し、その成果を公表した。それは、会計研究のあり方をめぐる若干の考察と出張費をめぐる不正経理の実態とその制度的背景などである。

研究成果の概要(英文)：Among the issues to be considered to be a problem at the beginning with the financial crisis the Lehman Shock, conduct research on the following themes, was published the results. In other words, accounting studies on the stress test, relationship and influence the role of the rating in the stress test of the accounting characteristics of the setting object and setting target setters of allowance for doubtful accounts, as liquidation value calculation system that assumes the company continues, and the like significance and the evils of "play" on the financial accounting rules operation.

In addition, as a theme related to the broad financial crisis, also studied the following themes, was published the results. It is the institutional background and fraudulent accounting of the actual situation concerning the travel costs and some of the discussion over the role of Accounting Research, and the like.

研究分野：財務会計論

キーワード：金融機関 金融危機 金融規制 リーマン・ショック 時価評価 公正価値評価 ストレステスト

1. 研究開始当初の背景

周知のように、2008年9月に米国で発生したリーマン・ショックは、米国の金融と経済に限定されず、広く世界の金融と経済に対して甚大な影響をおよぼした。このような影響は、実態経済や金融のみならず、金融をめぐる規則と規制に対しても大きな影響を与えたのである。

ここでいう金融をめぐる規則と規制では、金融または金融機関をめぐる諸問題が会計的または財務的な特性が強いことにも起因して、会計的な意義と側面が重要な役割を演じている。そのことは、財務会計レベルで企業外部に公表される会計情報についても管理会計レベルで企業内部で利用される会計情報にかんしても妥当するものであった。

さらには、金融機関の規制当局者が策定する規則と規制そしてそれに関連する会計基準と会計情報についても同様である。

本研究においては、そのサブタイトルにもあるように、リーマン・ショック後の規則と規制に焦点を当てることにより、金融危機の会計学的・経営学的そして経済学的な特性を明確化することを、その研究開始当初には意図していたものである。

2. 研究の目的

本研究においては、2008年9月に発生したリーマン・ショックによる金融危機または世界同時不況を対象として、会計学(財務会計論)の観点から、その発生原因と政策的対応過程そしてその回復過程を究明することを、その目的とするものである。本研究では、リーマン・ショック等による金融危機に対処するための会計的な政策や金融上の政策が考案、実施されてきた経緯とその背景を、可能なかぎり第一次資料にもとづき考察する。

さらに本研究では、こうした金融危機がわが国金融機関と金融政策等におよぼした政策上の影響とその効果についても、会計学(財務会計論)の観点から究明するものである。

本研究では4年間の研究期間において、経済社会における資金調達と資金運用に重要な役割を演じている金融機関そして金融システムさらにはそれらにかかる政策や規制を、会計学(財務会計論)の観点から論点整理し、それらの関連性を普遍的な分析的フレームワークとして提示し、部分的に実証的研究をも展開する予定である。さらには本研究で提示したフレームワーク、そして政策や規制と会計システムとの関連性をめぐる議論や論理は、今般の金融危機から導出された一般理論(またはそれに近いもの)が今後の金融危機をめぐる会計研究や金融上の研究の礎になることを目指すものである。

本研究の目的における主要な特徴は以下の2点である。

会計学、会計政策における「総合性」

本研究では、リーマン・ショック以降の金

融危機の状況とそれに対する政策的な対応やその成果と影響を、会計学(財務会計論)の観点から究明することを目的とする。会計学は、そもそもの存在意義またはその機能特性からして、社会科学のなかでもとくに「総合的な色彩」を備えている特徴がある。そこにおいては、会計学あるいは会計基準が「ビジネスにおけるルール」としての特性を有するがゆえに、多種多様なステークホルダーが関与しており、そこでは、会計(学)、経営(学)、経済(学)そして法律(学)や政治(学)などが「錯綜」している。

とくに会計基準や会計情報の経済的影響が大きい事案においては、そうした傾向が顕著である。そこでは、たんに財務会計領域における問題だけではなく、会計政策や会計規制そして経済政策や経済規制が果たす役割が多くなる。そのような役割を、金融危機という事案をもとに考察する。

「総合性」の象徴的存在としての金融危機

本研究において対象とするのはリーマン・ショック以降の金融危機である。今回の金融危機にかぎらず、金融危機は一般に金融政策や経済政策等の影響を強く受け、その結果としての会計情報が適時適切に作成、伝達されなかったことに、その一因があることが多く、また新たな金融商品や金融取引を描写するための会計基準や会計システムの不備が問題となる傾向がある。

このような傾向は、過去の金融危機にも、今般の金融危機にも共通するものである。極論すれば、金融危機は、そうでなくとも「総合性」に富んだ社会科学領域における重大な事件や失敗のなかでも、とくにそのような特性を多く含んでいるものである。今回の金融危機は「百年に一度の危機」といわれるが、これを学術面からみれば「百年に一度の好機」であり、またこの時代に活躍する研究者の「権利」であるとともに「義務」でもある。

これら2つの特徴を有するこうした試みは、換言すれば「金融危機をめぐる会計的メカニズム」を究明することでもある。金融機関と金融システムは事業会社等の資金調達と資金運用において大きな役割を担っている。これは財務会計の役割そのものであるといってもよい。それが破綻または機能不全に陥る金融危機は「失敗に学ぶ」ためにも重要である。

3. 研究の方法

本研究における研究計画・方法は、リーマン・ブラザーズの破綻についてまとめた米連邦破産裁判所による報告書の解析、それに関連した文献と資料の収集と解析、それらをまとめた分析的フレームワークの構築とそれによる検討、そしてリーマン・ショックがわが国金融機関におよぼした影響にかかるデータの入手と解析、リーマン・ショック以降の会計政策と金融政策や金融規

制の変遷そしてそれについての会計学的な評価と位置付け、さらに とくに会計政策と金融政策や金融規制との関連と会計基準や会計情報の意義について考察する。

本研究では、原則としてリーマン・ショックとそれ以降の事象にかかるおもに金融面あるいは経済面の問題を、会計学（財務会計論）そして政策論（規制論）の観点から評価するものである。かような意味において、本研究の計画と方法は総合的かつ俯瞰的なものである。

具体的には、以下の3つのプロセスを経てその計画を実行する予定であった。

リーマン・ブラザーズ破綻についての調査・研究

米国破産裁判所の報告書“*Lehman Brothers Holding Inc. Chapter 11 Proceeding Examiner's Report*”が2010年3月に公表されている。この報告書は“Appendix”を除いても(Appendixだけでも2,000頁近くある)、2,200頁もあり、非常に詳細な分析が展開されている。この報告書はすでに入手している。これは第一級の調査報告書であり、また関係する文献も豊富に引用、掲載されている。

リーマン・ショックの影響とその背景についての調査・研究

リーマン・ブラザーズという特定の金融機関の破綻が、リーマン・ショックと呼ばれる金融危機に進展したのには、ひとつには金融システムの特徴があり、もうひとつには、自己資本比率規制等の金融規制の影響が大きい。そしてこれらの問題には、個別金融機関の貸借対照表の構造（内容）とそれをめぐる会計基準や会計規制の影響、さらには資産や負債の評価という会計学上の古典的かつ重要な論点を含むものである。

究極的には金融危機の原因は、リスクマネジメントの失敗そして資産と負債の評価の失敗に帰結すると考えられる。そうした問題意識から、金融システムと金融規制について考察する。

会計基準・会計システムとの関連性についての調査・研究

金融機関を適用対象とする会計システムは、ある意味で特殊なものである。具体的には、時価会計の必要性が事業会社等とくらべてとくに高いのもその特徴のひとつである。

平時における会計システムの役割と戦時（たとえば金融危機）におけるそれとでは、それは大きく異なることが予想される（または経験してきている）。具体的にはたとえば、時価会計の意義は、平時と戦時では異なるものであるし、さらには、金融危機等の戦時における問題の発見または解決の一助として提案されたと解釈できる時価会計が、平時における有用性とつぎの戦時でのそれとでは変質する傾向が観察される。

4. 研究成果

本研究の成果は、まだ出尽くしてはいない。

平成27年度と同28年度にも継続する予定はあるが、平成26年度までに公表した研究成果については、つぎの5を参照されたい。

また本研究に関連して、金融危機をめぐる会計問題を狭義に捉えるのではなく、その周辺で機能しているシステム（たとえばストレステストや不正経理）をも包含したものと理解、研究することの重要性を認識するに至った次第である。

本研究の研究計画では、本研究の研究成果については、従前の論文でもなされているところであるが、また今後の論文公表においてもなされる予定であるが、最終的には、単著の研究書として公刊することを想定しているところである。

研究計画の段階では、『金融危機の会計分析 リーマン・ショック後の規則と規制の改革をめぐって』（仮題）としての公表を予定していたが、そのテーマまたはタイトルとしては、先述した事情等もあり、より広く『企業会計とリスクマネジメント その新潮流と会計学的位置づけ』（仮題）として、平成27年度または平成28年度に公刊する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 7件)

(1) 星野一郎「ネットオークションにおける値決め機能の会計学的合理性について」『イノベーション・マネジメント研究』(信州大学経営大学院)第10号(2015年3月)、14-35頁。【査読有り】

(2) 星野一郎「財務会計ルール運用上の『遊び』の意義と弊害 スムースネスに転換する瞬間とその契機」『経理研究』(中央大学経理研究所)第58号(2015年3月)250-274頁。【査読無し】

(3) 星野一郎 星野一郎「出張費をめぐる不正経理の実態とその制度的背景 国立大学法人等の非営利組織を前提にして」『広島大学経済論叢』第38巻第2号(2014年11月)、65-98頁。【査読無し】

(4) 星野一郎「会計研究のあり方をめぐる若干の考察 特定論点の意義と課題そして背景」『経理研究』(中央大学経理研究所)第57号(2014年3月)、81-106頁。【査読無し】

(5)「ストレステストにおける格付けの役割と関係そして影響に関する会計学的研究 金融機関に対する健全性検査の一環としての機能と構造に関連して」『広島大学経済論叢』第37巻第2号(2013年11月)、51-67頁。【査読無し】

(6) 星野一郎「企業継続を前提とした清算価値算定システムとしてのストレステスト 金融機関に対するストレステストをめぐる波及効果に着目して」『産業経理』

第 73 卷第 3 号(2013 年 10 月),36-53 頁。【査読有り】

(7) 星野一郎「貸倒引当金の設定主体と設定客体そして設定対象の会計的特性」『広島大学マネジメント研究』第 13 号(2012 年 12 月), 73-96 頁。【査読無し】

〔学会発表〕(計 1 件)

(1) 星野一郎「不正経理類型化試論とその展開可能性 その会計的・経営的特性とその背景」産業経理協会戦略会計研究会(産業経理協会主催), 2015 年 1 月 23 日。

[発表場所: 一般財団法人産業経理協会(東京都千代田区)]

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

星野一郎 (Hoshino, Ichirou)

広島大学・社会科学研究科・教授

研究者番号: 10202300

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: